

# 第5回 阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会 ニュース

## JR茨木駅周辺まち歩き

当日の内容を皆様と共有させていただくため、ニュースを毎回発行していきます。

2019年6月13日 発行

2019年5月11日に「第5回阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会」をまち歩き形式で開催しました。

今回も商店街で営業されている方や阪急茨木市駅周辺まちづくりに関心のある方など、総勢9名の方に参加いただきました。

今回のまち歩きは、JR茨木駅周辺がどのような動きになっているのか、どのような方がどのような使い方をしているのか体感し、阪急茨木市駅周辺のまちづくりのヒントを探り、考えるきっかけとして実施しました。

また、前回に引き続き、アドバイザーとして近畿大学総合社会学部の久教授にご参加いただきました。

### ○ 岩倉公園・立命館大学・イオン～JR茨木駅

岩倉公園は、立命館大学の開学に合わせて整備された防災公園です。大学との境に塀は無く、大学と一体となった空間が整備されています。

また、公園に隣接する市民開放施設（立命館いばらきフューチャープラザ）にある「まちライブラリー」も見学しました。まちライブラリーは、本を介して人々が出会い交流するコミュニティ型のライブラリーで、会員になれば本に関するイベントを開催でき、会員に限らずイベントに参加できるとの説明がありました。

立命館大学は、「地域に開かれた大学」というコンセプトから、まちライブラリーに運営を委託し、このような取組をしています。

当地区は、周辺の都市計画道路整備が進むとともに、阪急南茨木駅やモノレール宇野駅からの歩行空間や、JR茨木駅からの歩行者専用道路等が整備されたことにより、アクセスが容易になりました。まち歩きでは、都市計画道路茨木松ヶ本線のJRアンダーパスを通り、イオンや、JR茨木駅までのアクセスを実際に歩き確認しました。



岩倉公園



まちライブラリー

### ○ JR茨木駅東口広場（いばらきスカイパレット）

JR茨木駅東口広場（愛称：いばらきスカイパレット）は、2階にデッキ広場が整備され、イベントスペース（約230㎡）が設けられており、音楽イベントや手作り市、マルシェなどが開催されています。

一方で、デッキ広場の位置づけが道路法上の道路であるため、色々な使用上の制限が有り、利用にあたっては、道路占用許可と道路使用許可の手続きが必要となります。

## ○ 市民会館跡地エリア

平成 27 年 12 月に閉館した元市民会館を含む周辺エリアの活用については、「市民会館 100 人会議」をはじめとした市民との対話や議論を経て、コンセプトや導入機能・施設構成のイメージを整理しており、キーコンセプトに、「育てる広場」を掲げています。

導入施設は、ホール機能、サードプレイス、普段使いできる交流とにぎわいの空間、子育て支援いばらき版ネウボラ等です。

現在解体中ですが、文化施設だけでなく、芝生広場などの憩いの場も設け、元茨木川緑地や川端康成文学館など自然・文化的要素の南北軸の拠点とし、JR や阪急の中間に位置し、人の移動や活動の中継し、回遊が生まれるような都市的要素の東西軸の交点として、人が集まる場所となること、まちづくりの起点となることを目指しているとの説明がありました。

## ○ にぎわい亭

にぎわい亭は、平成 13 年度から平成 16 年度までの中心市街地活性化基本計画作成に向けた取組みの中で、平成 15 年に市民による運営のもと、本町商店街に「茨木交流倶楽部」がオープンしていましたが、茨木交流倶楽部の活動は約 3 年半で終え、平成 19 年に新しいまちづくりの拠点として、阪急本通り商店街に、買物客用の駐輪場とイベントスペースや交流サロン、会議室、地域に開放したトイレ等を備えたまちづくり交流ステーションとして、茨木商工会議所によって運営されています。

昨年度は、地震や台風の被害による改修工事のため、利用者が減少しましたが、改修の際に、利用しやすいようレイアウト等を変更したとのことでした。

## ○ 参加者の感想

- 立命館大学がまちに開かれた大学になり、まちが生まれ変わったことを実感した。阪急茨木市駅前も、老朽化した状態から、まちに開いた場所へ早く変えるべきと感じた。
- 子供が立命館大学に通学しているが、初めて歩いた。
- まちが変わっていた。マンションが増えていてどうなるのかと思った。住居だけでなく、1 階にはスーパーなどの施設があるビルは良いと思う。
- 茨木はバス通りと商店街があり、規模は違うが京都の錦市場と四条通りに似ていると思った。錦市場と四条通りのようなイメージで進めていきたい。
- 行ったことがなかった。大学が来たことでここまでまちなみが変わるのかと感じた。JR 側とは異なる考えで阪急側は進めなければいけない。
- 改めて歩くと良いまちと感じた。暮らしている感覚と訪問者の感覚にはズレがある。他市町から来た方は茨木に来るとホッとす・落ち着くと言われたことがある。みどりを維持しながらまちづくりを考えていきたい。
- 立命館大学から阪急茨木市駅までは高低差もなく、ゆったりとまち歩きできる。スポット情報を発信すれば、もっと楽しくまち歩きができる。情報発信拠点を設け、市民の方だけでなく他市からの来街者に情報を発信することができればと思った。
- ファミリーや学生、主婦が多くて良かった。商店街にもこういう人が来れば良いまちになる。まちににじみだすことがあれば。スカイパレットは使えるスペースが少ない。茨木神社から商店街までがマンションに変わっていくのかと思った。

- 岩倉公園とイオンをつなぐアンダーパスは、利用している方が多い印象を受けた。アンダーパスの利便性が高いこともあるが、やはり岩倉公園やイオンという拠点があり、人が向かう目的になっていると思った。阪急茨木市駅にも目的性の高い施設を整備し、拠点化を図ることでまちをつなげていければ良いと感じた。
- にぎわい亭は古い建物のリノベーションによって新しい役割を担い、商店街の中での存在意義を示している。
- 本町商店街では、マンションの建て替えが目立っている。阪急側は歴史のあるまちでもあるので、良いものを活かしたまちづくりを考えていければ。



## ○ まとめ（アドバイザー久教授より）

今日は皆でまち歩きをして、JR側のまちの構造が大きく変わっていることを実感していただいたかった。阪急側の方にJR側を認識していただき、阪急側のまちづくりに活かしていただきたい。次回からは阪急側に議論は戻るが、広域的にどういう拠点があってどうつなげていけば良いか一緒に議論したい。

市中心部にある駅と駅は、程よい距離にある。立命館大学ができる前は阪急南茨木駅からJR茨木駅まで歩く人はいなかったのではないかな。今は、立命館大学で休憩できることで歩くことができるようになった。

立命館大学ができる前は塀のある工場でしたが、もし、大学が塀をしていたら、本日歩いた「まち」にならなかったのではないかな。阪急茨木市駅周辺は拠点となるものであり、まちに開かれているのか、閉じているのか、どのように拡がりをもたせるかを考えないといけない。

新しい市民会館は、中央公園南グランドに建築予定で、立命館大学のように休憩できるような場になるのではないかな。もしかすると、人の動線は中央通りではなく、東西通りがメインになる可能性もある。中央通りの新しい魅力づくりを考えていかないといけない。

本日の参加者からの感想に、新しいビルができる時に、住居だけでなく、1階に店舗等が入って欲しいとの意見があった。それを要望する場合、二つ手段がある。一つは、規制する方法。もう一つは、ビジョンを共有することによって、ゆるやかに誘導する方法。指針のようなものがあればやんわりとまちの姿を示すことができる。学集会でも、そのようなものを一緒に作っていききたい。

また、阪急側は歴史のあるまち。全体のつながりを意識しながら、新しいものや古いもの、歴史的なものを活かして魅力づけすることも大切と思う。

次回の学集会は2019年6月28日(金)19:00～ @ローズWAM5階  
学集会にご参加いただける方は事前に下記担当まで、ご連絡ください。  
連絡先:茨木市 市街地新生課 担当:三浦、藤岡

TEL :072-620-1821 FAX :072-620-1730 mail:shigaichi@city.ibaraki.lg.jp